

京都の福祉

シェアセ運ぶ情報誌

567
2018年
1月

Contents

- 京都府社会福祉協議会会長 年頭挨拶
京都府知事 年頭挨拶
 - 職員の変化を促し職場を活性化させる
OJTリーダー養成研修
- “いざ！”という時も地域のつながりと助け合い
～台風18号・21号災害支援活動～
- 夢中！熱中！ふくしびと



▼この一年を振り返り、明るい話題を考えたとき将棋界で躍進する藤井聡太四段が思い浮かんだ。その深い読みと終盤の強さには思わず唖らされたし、更なる活躍が大変楽しみである。そして、新春にふさわしい明るい未来社会を語るにも現実と向き合い、精度の高い分析力と実行力が必要である▼今まさに少子高齢化が進行する中での社会保障制度の持続可能性に赤信号が灯り、もはや待ったなしの局面を迎えている。人口が減少する次世代に任せるには限度がある▼我が国の合計特殊出生率が人口置換水準を下回ったのは昭和31年(1956)とされており、以降今日まで大きく割り込んだまま平成17年(2005)に人口自然増減数がマイナスに転じた。このダメージからの回復にはかなりの年数と労力がいる▼では、この約半世紀はどのように過ぎていったのか。データからの将来推計はされていたが、実際に人口が減少するまでには相当の期間があったことから、結果としてみんなが見ぬふりで先送りをしたということか。当然、次代を担う若い世代に何も非はない▼今多くの打開策が打ち出されつつあるが、実効性のあるものになるには国民生活や企業活動などの実態経済と連動しなければならぬ。巷に溢れる多様な情報(インフォメーション)をビッグデータとして大いに活用し、その情報を活かすための戦略(インテリジェンス)を組み立てて、発揮しなくてはならない▼今更ではあるが、我が国が苦手とするところでもあるが、長考はできない。次世代により良い福祉社会を引き継ぐため、出来ることから始める。待ったなしである。

もえんさ 新年あけましておめでとうございます

(MY)



『つながりをとおして、だれもが尊厳をもって 生きることができる京都』の実現をめざして

社会福祉法人 京都府社会福祉協議会 会長 位高 光司

新年あけましておめでとございませぬ。日本や世界のこの1年を振り返りますと、経済は順調に回復基調を続けていますが、日本の政治は相変わらずすっきりしない状況が続いており、それにも増して世界は北朝鮮問題や自己中心主義のトランプ大統領に攪乱された1年だったように思われます。

今年が戊戌の年、いぬ年、ですが、安岡正篤先生の干支学によりますと、世界全体が鬱蒼とした茂みの中でどのように動けばよいか迷走せざるを得ない年、とのことであり、そこで必要なことは、人間社会にもっと風通しの良い関係を築く必要がある、そのためコミュニケーションを深め、お互いの信頼関係を高めること、と言われております。

一方、本会について振り返りますと、4月に改正社会福祉法が施行され、5月には地域福祉活動の原点となる民生委員制度が100周年の節目を迎えました。社会福祉法人は今日の社会経済情勢に的確かつ柔軟に対応し、その使命・責任を果たす必要がありますが、中でも地域の福祉力が低下していく中で民生委員・児童委員の皆様

の地域に根差した活動に心から敬意を表します。

また、地球温暖化の影響が、巨大台風が日本列島を幾度となく縦断し、京都府内でも多くの被害が発生いたしました。被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。そして各市町村社協とともに活動いただいた住民やボランティアの皆さん、そして多くの関係者の方々の献身的な支援活動に感謝を申し上げますとともに、いざという時に発揮されるお互いさまの思いやりの心に意を強くいたしました。

さて、本会は、市区町村社会福祉協議会、民生委員・児童委員、社会福祉施設や福祉関係団体等の皆さまとともに、地域で福祉課題を抱えながら暮らす方々を支える地域の絆づくりや福祉人材の確保・育成を支援する事業などに取り組んでおります。

具体的には、地域住民の重層的な見守り・支援ネットワークである「絆ネット」づくりや地域課題の解決に協働して取り組む「地域福祉創生事業（わかプロジェクト）」の実施、生活困窮社会のための地域づくりを目指す「生活困窮社会における地域づくり研究会」、介護・福祉職場の人材確保・

定着・育成のための総合的な事業などを通じて、国が掲げる「地域共生社会の実現」を先取りし、「つながりとおして、だれもが尊厳をもって生きることができる京都」を目指して、より一層尽力してまいります。

こうした事業・活動を継続的、安定的に進めることができますのも、京都府や市町村などの行政機関、福祉関係者をはじめ福祉活動に御理解のある幅広い分野の団体・個人の皆さまとの連携・協働を通じてであり、皆さまの温かい御支援、御協力に深く感謝申し上げます。特に、本年は生活困窮者自立支援制度や生活保護制度の見直しが見直しが予定され、また4月には介護報酬・障害福祉サービス等報酬の改定、子育て安心プランの実施など福祉関連分野で大きな動きがあります。本年も、皆さま方とともに、新たな課題に立ち向かって参る所存です。

結びに、新しい年も昨年同様、私も京都府社会福祉協議会の活動に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の御健勝と御多幸を心からお祈りいたします。



明日の京都を描くため

府民の皆さま、あけましておめでとございませぬ。

昨年を振り返って

京都府では、林田・荒巻府政以来築き上げてきた社会基盤がいよいよ実を結ぶ時期となりました。昨年4月に新名神高速道路の城陽・八幡京田辺間が開通し、ついに京都は京丹後市から木津川市まで高速道路によってひとつに繋がりました。

「海の京都」、「森の京都」と続き、昨年は「お茶の京都」事業により、南部地域全体に大変多くの人が訪れるとともに、北部地域では、美しい絹織物の地「丹後ちりめん回廊」が日本遺産に認定されるなど、観光面でも過去最高の賑わいとなり、府域全体が大きな盛り上がりを見せた一年となりました。

また、文化庁の全面的京都移転も正式に決定、移転場所も府庁の警察本部本館に決まり、名実ともに京都が「文化首都」と位置付けられ、文化芸術立国に向け大きな役割を担うことになった重要な節目の年となりました。

しかしながら一方では、依然、我が国周辺で安全保障について大きな緊迫感が続くとともに、少子高齢化や東京

一極集中の加速、子どもの貧困など様々な課題が改めて浮き彫りになった一年でもありました。

未来を切り拓く鍵

こうした背景には、少子高齢化や情報化、国際化の中で、家族形態も含め社会の多様化が進展することに対して、「地域の力」「自治の力」が低下し、旧来の制度や考え方では支えきれない局面が生まれてきたことがあげられると思えます。

特に近年では、様々な格差の問題や孤立社会といわれる無関心時代の到来も指摘される中、京都府では、従来から地域力再生を掲げ、地域の絆などの新しい地域づくりの環境・土台を基に、半公半Xの公共員制度や地域の公民の生活機能を集中化したコミュニティセンターの整備、子ども食堂や居場所づくりのためのこどもの城事業、さらに高齢化時代に医療、介護、福祉を連結させる地域包括ケアの推進、女性活躍から障害のある方の農業分野での活躍を支える農福連携など、幅広く「共生社会」の実現に向け取り組みを進めてまいりました。

京都府知事 山田 啓二

新しい時代へ

今年は、「明治」への改元、そして京都府の設置から150周年にあたります。当時、京都では、多くの人や産業が東京へ移り、3分の1の人口が減少したため、千年にわたって都として栄えた京都は、かつてない大きな危機に直面しました。

そのような激動の時代にあっても、京都府は、日本初の小学校（上京27番組（柳池）小学校）や女学校（新英学校および女紅場、言ろつ学校（京都盲啞院）の開校、府立医科大学の前身である医学校を療病院に付置、京都大学の前身である第三高等中学校の大坂からの誘致、同志社大学の設置許可など人づくりを中心にして府政を進め、さらに琵琶湖疏水の建設や経済界とも連動した京都博覧会の開催で産業の振興を図り、西陣織や茶業など様々な分野で新たな取り組みを進め、京都を復活させました。これが京都府政の原点であります。

そうした先人たちの努力が今日の京都の礎を築いてきたのであり、そこには、どんなに困難なときも未来に投資をして、未来のために現代を生きる京都の気概があります。

この150周年という節目を迎える

にあたり、今の京都の基盤が形作られてきた明治の時代を振り返り、常に先進的な取り組みを続けてきた先人たちの姿勢を受け継いで、新しい人づくりと文化力づくりによって京都の生き方が一層魅力あるものになるように、私たちは全力を挙げなければなりません。

京都には今、年間8,700万人もの観光客が訪れており、世界的にも日本、そして日本文化のふるさと・京都への関心が高まっていますが、2019年から3年連続でラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック競技大会、ワールドマスタースゲームズ2022 関西と大規模な国際大会が開催されます。

この機会を捉え、「京都文化力プロジェクト2016-2020」をはじめオール京都で力を合わせ、京都から日本の文化を発信し、大きな交流の渦が巻き起こるよう、全力を傾けてまいりたいと存じます。

人と文化によって地域の資源、歴史、伝統を活かし、人と人が支え合う共生社会の実現により、地域の力を再び取り戻し、新たな時代を切り拓くために共に歩んでまいりましょう。

私は、この4月で任期を全うする予定ですが、この一年の、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。

平成29年度 人権擁護啓発ポスターコンクール



京都府社会福祉協議会会長賞が決定しました！

人権擁護啓発ポスターコンクールは、府内の小・中・高等学校の児童・生徒が、人権をテーマとしたポスター（絵画）の制作を通じて基本的人権について一層理解を深め、人権尊重の精神を養う機会とするため昭和59年度から実施されています。

今年度は小・中・高の中から205校4,519点の応募がありました。その中から京都府社会福祉協議会会長賞として、京丹波町立下山小学校2年「川瀬 総司瀧（かわせ そうじろう）」さんの作品が選ばれました。



職員の変化を促し職場を活性化させる

OJTリーダー養成研修

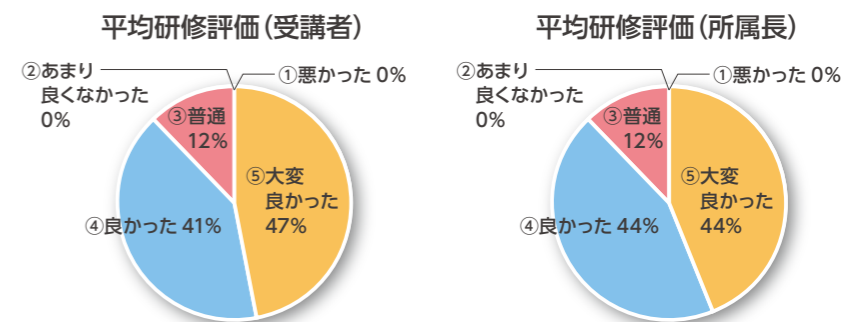
今春卒業予定の大学生の就職内定率が昨年10月1日現在で75.2%、一昨年の同時期より4%上昇しています。平成8年の文部科学省の調査開始以降で最高となっており、緩やかな景気回復を背景に企業の積極採用が行われていることがうかがえます。

そのような中、学生が多く参加する本会主催の就職フェアにおいて来場者数が多いブースには共通点があります。それは、若手職員がブースで対応していることや、給与・賞与の処遇に加えて、「キャリアパス・研修体制の充実」を全面に打ち出していることです。

このことから、学生が就職活動に際し「自分の職業人生をどう考えていくか」「自分はこの職場でどのように育ててもらえるのか」という自身の将来像を描く視点を重視していると思われます。

今回は京都府内における人材育成の取り組みの一環として、本会のOJTリーダー養成研修を紹介します。

過去5年間のアンケート評価(5段階)



OJTリーダー養成研修の特徴

本研修は、過去10年以上継続している研修であり、毎年定員を上回る応募があるニーズの高い研修です。

研修内容の一番の特徴は、受講者が各事業所で実際にOJTを実践し、全3回の研修内で実践報告を行うことです。この報告の際は受講者にとって振



津田 耕一 教授
関西福祉科学大学

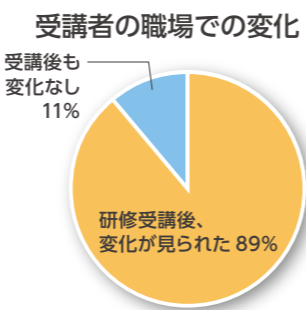
福祉現場で働く職員の専門性を高め、質の高い福祉サービスを提供できる職員育成に携わるとともに、福祉現場職員の研修のあるべき姿を模索されています。津田教授は「現在は、以前のように入新人に具体的な業務を伝達していく形から、職員が自ら考え応用できるような促しを与えることが求められるようになってきた。OJTを実践してみることでリーダー(受講者)自身が成長する。その成長した姿をみて後輩が育つ。人を育てることで組織全体が向上する好循環のプロセスが生まれている」と述べられています。

アフターアンケートから見えること

受講後のアフターアンケートからは「職員に対して積極的に自分から声をかけ、意見をしっかりと聞きながらリーダーシップを発揮できるようになった」「人材育成の意識が高まっている」「コミュニケーションを工夫したり、今までと違った関わり方に挑戦できている」「ひとりで抱え込まずほかの職員と相談できるよつになり、肩の力が少



アフターアンケートから見る受講後の変化



し抜けたように思う」などの意見があり、研修受講により約9割の受講者になんらかの変化をもたらしたことが分かれます。

併せて、その受講者の変化が周囲にも良い影響を与え職場全体の環境改善にもつながったとの意見もあります。このような良い連鎖が起きている事

研修受講者からの意見

研修受講者からは、「今回初めてOJTに取り組んだ。職場内でのOJT

に戻りの場となり、後輩指導にあたる活力となっています。また、初回と最終回には受講者の上司も同席し、「組織としてOJTをどのように進めていくかを考えるきっかけとしています。」

研修受講者からは、「今回初めてOJTに取り組んだ。職場内でのOJT

府社協の取り組み

苦情やトラブルが多い、離職率が高いなどの課題が多い事業所では、職員

業所はそれを強み・魅力として捉え、対外的にアピールすることが可能です。つまり、「人材育成＝人財育成」であり、職員が生き生きと仕事ができることがこの職場で働いてみたいと思わせる原動力になっていくと考えます。

人を育てることで組織が育つ

講師 津田耕一 教授のコメント
研修講師である津田耕一教授(関西福祉科学大学)は「福祉人材育成」等を専門分野とされています。そして、

が孤立している状況にあり、OJT体制が希薄だという共通点があると言われています。そのため対人援助を基本とする福祉現場において、職場単位でのOJTリーダーの養成は必要不可欠です。
福祉を志す人材が選んだ職場で働き続けられるよう事業所の努力と合わせ、本会としても引き続き研修事業を通じて京都府内の人材確保・育成・定着を一体的に進めていきます。

就活スタートアップフェア

～ 業界研究×就活準備～

- オープニングは元「アルマーニ」トップセールスマンから福祉業界へと転身した馬場拓也氏の講演「福祉職は社会をつくるクリエイター」
- 業界代表法人のプレゼン「地域と福祉の魅力」をわかりやすくリアルに語る
- 認知症VR・介護ロボットの体験からメイク・写真等の就活準備まで

福祉に関心のある全ての学生、一般求職者、法人の人事担当者等、気軽にご参加ください。

日時 2月6日(火)
12:00～16:00
(開場11:30～)

会場 メルパルク京都5階
JR京都駅(烏丸中央口)から東へ約1分



夢中! 熱中!
ふくしびと

だから続けたい この仕事

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で“熱い福祉”を“夢中”で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいを“生”の声でお届けします。

酒井 淑恵さん さかい よしえ

施設名 社会福祉法人 松花苑 ワークスおーい
〒621-0018

京都府亀岡市大井町小金岐北浦16

HP/URL : <http://syokaen.jp/>

TEL.0771-23-0703 FAX.0771-25-4654

職種 : 支援員 経験年数 : 6年

★好きな言葉 : 一期一会

★夢中になっている事 : 子どもと遊べる場所調べ



「その人を知りたい」

個別の作業提供やスケジュールが必要なメンバーもあり、このやり方で本当にいいんだろうか、と悩むこともありですが、メンバーがふと笑っている瞬間を見られた時にはこちらまで笑みがこぼれます。このグループには言葉だけではなく様々な関わりがあり、どんな時にどのよう感じるのか、メンバーそれぞれの個性を感じながら理解を深めていけたら、と思います。

★仕事を始めたきっかけは？
「この人の行動に込められた本當の思いは何なんだろう」。学生のころに抱いた疑問を解決したいと、大学で福祉を学び始めました。その間に御縁のあった「かしのき・ワークスおーい」で、卒業後働くことになりました。

★仕事の内容とやりがいは？
主に少人数グループでのお守りの内職作業に取り組んでいます。メンバーでできることを役割分担して完成させられるように調整するのが私の役割です。次々といろんなことをこなしている人、少しずつできる事が増えていく人、日々様々な変化を見せてもらえることが喜びであり、ささやかな事でもできる事を増やしていける手伝いができれば、と試行錯誤の日々です。



★プライベートの過ごし方は？
子どもと思いつき遊び事です。近所の公園で遊んだり、散歩したり、時々遠出してみたり。休日子どもと一緒に笑い、体を動かすことでリフレッシュしています。

★今後の目標(抱負)は？
6年でいろんな場所で経験を積ませてもらい、いろんな人に出会いました。その人たちがこれからも安心して過ごせるように、日々の小さな変化にも気付ける視野を持ち、柔軟に対応ができるように努力していこうと思います。

いざ! という時も
地域のつながりと助け合い

～ 台風18号・21号災害支援活動 ～

初動期の迅速な対応を目指して

平成29年9月17日(日)の深夜、台風18号が京都府北部を通過し、大雨による河川の氾濫や土砂等による家屋への被害が発生しました。

京都府災害ボランティアセンターでは、翌18日(月・祝)の朝から事務所に待機。各市町村社協に連絡を取りながら被害状況の把握、今後の支援策について協議を行いました。19日(火)には被害の大きかった宮津市、京丹後市を中心とした北部地域に先遣隊2名を派遣し、状況確認及び運営支援を行いました。また、資機材の貸出しや初動支援チーム登録者4名を被災地に派遣し、センター運営や活動に携わりました。



台風18号災害における被災地でのボランティアの動き

各市町の災害ボランティアセンター・社協は、住民のニーズ調査を開始すると共にボランティア募集を行いました。

今回、最も被害の大きかった京丹後市。市社協が普段からの地域との繋がりを中心にボランティアを呼びかけ、特に被害の大きかった地区では、自治会と連携し住民のニーズを丁寧に把握し復旧活動を展開しました。

台風18号における支援活動では、5市町において総勢454名の方にボランティアとして御協力いただきました。

台風21号災害におけるセンターの動き日々の備えを活動の力に…

台風18号による被害への対応から約1か月、台風21号の影響で10月22日(日)から23日(月)未明にかけて、浸水や土砂崩れなど、またも大きな被害が発生しました。

福知山市災害ボランティアセンターでは、台風18号に続いての対応となりましたが、日頃の備えが迅速な活動につながり、開設から8日後の11月1日(水)には非常時体制での対応を終え、平常時体制へと移行されました。

また、綾部市災害ボランティアセンターでは、自治会、地域住民、ボランティア、社協職員を中心に地元主体での復旧活動を展開されました。

台風21号で最も被害が大きかった舞鶴市においては、舞鶴災害ボランティアセンターが10月23日(月)にセンター構成団体代表者会議を開催。多数のボランティアが見込まれる土日に限定して支援活動を設定し、平日はニーズ把握やボランティア募集に力を注ぐ運営を行いました。

このように、各センターが地域の実情に沿った様々な対応・工夫をして、被災者の思いに寄り添った支援を行うために各被災地域と連携し、取り組むこととなりました。台風21号における支援活動では、3市において総勢297名の方にボランティアとして御協力いただきました。

今回の支援を振り返って

今回の2つの災害では、市町村域内において身近な住民相互による助け合い活動の力強さを実感する機会となりました。そして、日常からのつながりがあってこそ、「いざ」という時の迅速な対応につながっていくことを再認識する機会ともなりました。

京都府社会福祉協議会からのお知らせ

寄付

ご寄付ありがとうございました
ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。ありがとうございました。

平成29年11月15日に「自由同和会京都府本部」様より100,000円をご寄付いただきました。

平成29年11月24日に「一般財団法人近畿陸運協会」様より500,000円をご寄付いただきました。

平成29年11月29日に「公益財団法人京遊連社会福祉基金」様より500,000円をご寄付いただきました。

平成29年12月1日に「関西遊技機商業協同組合」様より車いす7台、クッション7枚をご寄付いただきました。

案内

きょうと介護・福祉職場面接会&相談会、セミナー

- 日時 1月19日(金) 13:00~18:00
就職お役立ちセミナー 13:00~14:30
面接会&相談会 14:30~18:00

- 会場 ハートピア京都3階大会議室ほか(市営地下鉄丸太町駅5番出口からすぐ)
- 対象 福祉職場に就職を希望する一般・学生(平成30年3月卒業予定)の方

就活スタートアップフェア ～業界研究×就活準備～を開催!

“地域と福祉”の魅力を発信するセミナーやブースを準備しています。福祉に関心のある方、気軽にご参加ください。

- 日時 2月6日(火) 12:00~16:00 (開場11:30~)
- 会場 メルパルク京都5階(JR京都駅烏丸中央口から東へ約1分)
- 対象 全ての学生、一般求職者

介護・福祉の仕事相談&面接会、セミナー、みんなで話さNight

- 日時
 - ① 2月8日(木) 14:30~20:00
知って得するセミナー 14:30~15:30
相談&面接会 15:30~17:30
福祉のおしごとみんなで話さNight 18:00~20:00
 - ② 2月9日(金)
相談&面接会 15:30~17:30
- 会場 ハートピア京都1階スペースほか

- 対象 福祉職場に就職を希望する一般・学生(平成30年3月卒業予定)の方

FUKUSHI就職フェアを開催します!

介護や福祉の仕事に関心ある方、就職のチャンスです。ぜひご来場ください。

- 日時 3月4日(日) 12:00~17:00 (受付11:30~)
- 会場 メルパルク京都5・6階
- 対象 福祉職場に就職を希望する一般・学生(平成31年3月卒業予定)等の方

【問い合わせ先】
福祉人材課 TEL.075-252-6297

ひとりで悩まないで! 知っていますか? DVのこと

DVとは、夫婦や恋人などの、親しい男女の間で起こる暴力のことをいいます。京都府では、被害者が安心して相談できる環境づくりと、DVを許さない社会づくりを進めています。



京都府府民生活部男女共同参画課
TEL.075-414-4291
<http://www.pref.kyoto.jp/josei/dv13.html>

●本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。
<http://www.kyoshakyo.or.jp>



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。

平成29年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金補償限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	死亡10万円 後遺障害0.3~10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)	死亡10万円 後遺障害0.3~10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

保険期間1年

▶ 年額保険料(掛金)		基本補償(A型)
定員		
1~50名		35,000~61,460円
51~100名		68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと		1,500円

補償基本(A型) + 付見舞費用(B型) = 基本補償(A型) 保険料 + 【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円

- プラン2 施設利用者の補償
- プラン3 施設職員の補償
- プラン4 社会福祉法人役員等の補償



スケールメリットを活かした
充実した補償と
割安な保険料
です。

◆29年度新設 看護師の賠償責任補償(プラン1-①オプション2)

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課 保険会社〉
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763